

一般社団法人
日本航空宇宙工業会
常務理事

山北 和之

寸言



FIA2018を終えて

この7月、SJACは会員会社8社とともにフーンボロエアショー（FIA2018）に出展して参りました。ブースには駐英日本国大使を始めとする多くの方々のご来訪を頂き、士気も大いに高まりました。詳しいことは本誌記事でも紹介いたしますが、この場をお借りし、出展チームの代表として感じたことを、脈絡のない形にはなりますが、報告させて頂きたいと思います。

第一に、今回エアショーでMRJのデモフライトが初披露されました。元々美しい機体の航空機ですが、“MRJ DISCOVER CHOICE”と大書された胴体下部を私たちに向け目前を旋回する様子に、日本の技術力が誇示されているようで感銘を受けました。そして皆が異口同音に口にしたのは、実に静かな航空機だということでした。今回、日本人のみならず世界の人々にも良いアピールとなったのではないのでしょうか。

屋内展示に目を向けると、多くの中国企業が大きな面積の展示をしていたのが活動的に見え、私には印象的でした。また、英国の次世代ステルス戦闘機実物大モックアップも注目を引き、同国の健在ぶりを示していたようです。我が国もSJACブース8社以外にJETROが率いる7社を始めとする十数社が出展し、日本の技術力を示していました。欧米の牙城とも思える航空宇宙分野において、エアショーやJAなどを契機に日本企業がその実力を頼みに切り込んでいくことを念じてやみません。

FIAで感心したのは、トレードデー最後の金曜日にフューチャーズデーと称して11歳から21歳までの学生を展示会場に招く試みで、若者向けの人材育成として良い企画だと感じました。SJAC展示を

見て、来場した若者の頭の片隅に日本企業のイメージでも何かしか残れば、と願っています。

FIAサイドイベントとして高校生によるモデルロケット打ち上げ大会がAIA、GIFAS、ADSにSJACが加わる形で開かれ、日本の高校生チームが4者中3位と健闘しました。日本国内では法的制約からモデルロケット打ち上げの実験回数を確保できず、苦労があったようです。プレゼンテーションでもかなり突っ込んだ技術的質問をされたそうですが、これも欧米が航空宇宙分野での人材育成を重視している現れです。米国チームは毎年、大統領の激励を受けてこの大会に臨んでいます。

ここで、SJACがエアショーで数年前から行っているワークショップについても附言申し上げたいと思います。要するに参加各社による英語でのプレゼンテーションですが、その内容が最近格段に向上しています。説明資料も、当初は資本金がいくらで、どこに工場があり・・・といったものでしたが、今回は各社の特徴や何を販売したいかなど、それぞれの意図が感じられるようになってきました。パワポ資料自体も中間色で見やすく、上品で好感が持てました。発表者の多くが手元資料も見ず堂々と英語で発表する姿を見て、後生畏る可しの気分です。

最後に、今回のFIA出展は各社様から大きなサポートを得て実現することができました。アテンダントの皆さんも長期間、大変ご苦労されましたが、SJACとしてのチームワークを醸成できたと思います。今後は全体の実力向上に伴って一部シャレー展示などについても検討が行われるかもしれませんが、チームワークを今後とも保っていければと期待します。関係の皆さん、本当にありがとうございました。